

平成7年度(1995)
個展を前提とした作品制作研究(13)
第13回個展・茶絵羅 in Naha

金城 満

1. 展覧会名:

金城満展 -シリーズ「電腦水脈」-

2. 趣旨:

コンピュータの発達による過剰なまでの情報と、個人の認識の是非に関係なく潜伏化した個人情報の形象化がテーマである。

3. 材料技法

和紙、インク、ジェッソ、水彩、箔

4. 展覧会場

アートギャラリー茶絵羅

5. 展覧会期

1995年10月02日(月)～14日(土)、8日(日)は休み ※12日間

6. 開館時間

10:00～19:00

7. 観覧料金

無料

8. 企画

アートギャラリー茶絵羅

9. 作品リスト

No.	作品名	サイズ (cm)	材 料	制作年月	備 考
192	シリーズ「電腦水脈」01	32.0 x 20.0 cm	和紙、インク、水彩、箔	1995年	第13回個展
180	シリーズ「電腦水脈」02	27.0 x 20.0 cm	和紙、インク、水彩、箔	1995年	第13回個展
179	シリーズ「電腦水脈」03	25.0 x 20.0 cm	和紙、インク、水彩	1995年	第13回個展
190	シリーズ「電腦水脈」04	35.0 x 20.0 cm	和紙、インク、ジェット、水彩	1995年	第13回個展
188	シリーズ「電腦水脈」05	35.0 x 20.0 cm	和紙、インク、ジェット水彩、箔	1995年	第13回個展
187	シリーズ「電腦水脈」06	35.0 x 20.0 cm	和紙、インク、ジェット、水彩	1995年	第13回個展
194	シリーズ「電腦水脈」07	35.0 x 20.0 cm	和紙、インク、ジェット、水彩	1995年	第13回個展
189	シリーズ「電腦水脈」08	35.0 x 20.0 cm	和紙、インク、ジェット水彩、箔	1995年	第13回個展
193	シリーズ「電腦水脈」09	35.0 x 20.0 cm	和紙、インク、ジェット、水彩	1995年	第13回個展
181	シリーズ「電腦水脈」10	60.0 x 20.0 cm	和紙、インク、ジェット、水彩	1995年	第13回個展
186	シリーズ「電腦水脈」11	35.0 x 20.0 cm	和紙、インク、ジェット、水彩	1995年	第13回個展
196	シリーズ「電腦水脈」12	35.0 x 20.0 cm	和紙、インク、ジェット、水彩	1995年	第13回個展
195	シリーズ「電腦水脈」13	35.0 x 20.0 cm	和紙、インク、ジェット、水彩	1995年	第13回個展
184	シリーズ「電腦水脈」14	60.0 x 20.0 cm	和紙、インク、ジェット、水彩	1995年	第13回個展
183	シリーズ「電腦水脈」15	60.0 x 20.0 cm	和紙、インク、ジェット、水彩	1995年	第13回個展
182	シリーズ「電腦水脈」16	60.0 x 20.0 cm	和紙、インク、ジェット、水彩	1995年	第13回個展
197	シリーズ「電腦水脈」17	35.0 x 22.0 cm	和紙、インク、ジェット、水彩	1995年	第13回個展
199	シリーズ「電腦水脈」18	30.0 x 40.0 cm	和紙、インク、ジェット、水彩、箔	1995年	第13回個展
198	シリーズ「電腦水脈」19	30.0 x 40.0 cm	和紙、インク、ジェット、水彩、箔	1995年	第13回個展
191	シリーズ「電腦水脈」20	40.0 x 30.0 cm	和紙、インク、水彩、箔	1995年	第13回個展
185	シリーズ「電腦水脈」21	60.0 x 20.0 cm	和紙、インク、ジェット、水彩	1995年	第13回個展

10. 関連イベント

11. 考察（報道等資料）（pp.17-19）

(1) 沖縄タイムス 1995.10.06 展覧会から 金城満展 -シリーズ「電腦水脈」-

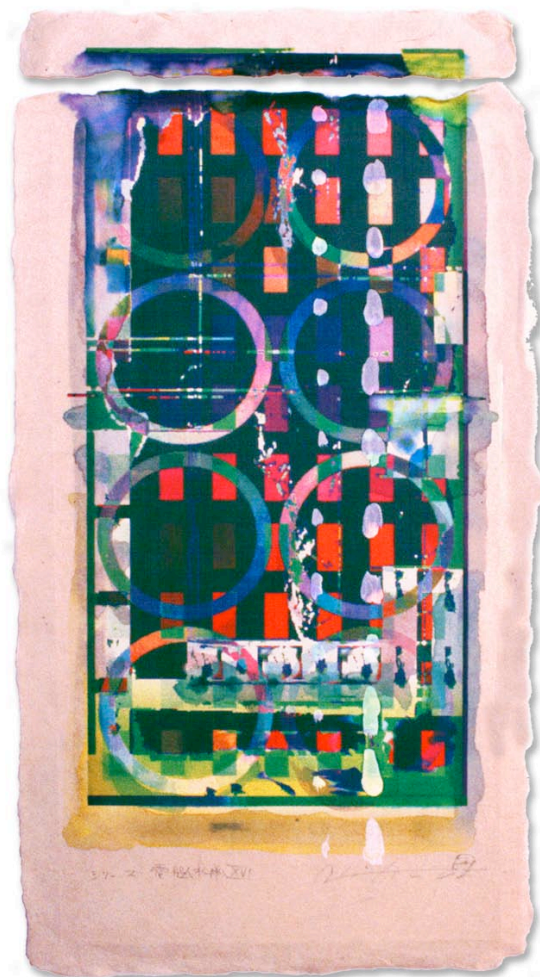
(2) 琉球新報 1995.11.08 10月美術月評
情報過多時代を形象化 (県立芸術大学助教授 浅野春男)

(3) 沖縄タイムス 1995.11.25 10月美術月評
(那覇市文化協会事務局次長 佐藤善五郎)





電腦水脈11
35.0 x20.0 cm 1995年
和紙、インク、ジェッツ、水彩



電腦水脈06
35.0 x20.0 cm 1995年
和紙、インク、ジェッツ、水彩



電腦水脈05
35.0 x20.0 cm 1995年
和紙、インク、ジェッツ、水彩



電腦水脈08
35.0 x20.0 cm 1995年
和紙、インク、ジェッツ、水彩



電腦水脈04
35.0 x20.0 cm 1995年
和紙、インク、ジェッツ、水彩



電腦水脈09
35.0 x20.0 cm 1995年
和紙、インク、ジェッツ、水彩



電腦水脈07
35.0 x20.0 cm 1995年
和紙、インク、ジェッツ、水彩



電腦水脈13
35.0 x20.0 cm 1995年
和紙、インク、ジェッツ、水彩



電腦水脈12
35.0 x20.0 cm 1995年
和紙、インク、ジェツソ、水彩



電腦水脈01
32.0 x20.0 cm 1995年
和紙、インク、水彩、箔



電腦水脈02
27.0 x20.0 cm 1995年
和紙、インク、水彩、箔



電腦水脈17
35.0 x22.0cm 1995年
和紙、インク、ジェツソ、水彩



電腦水脈19
30.0 x40.0 cm 1995年
和紙、インク、ジェッツ、水彩、箔



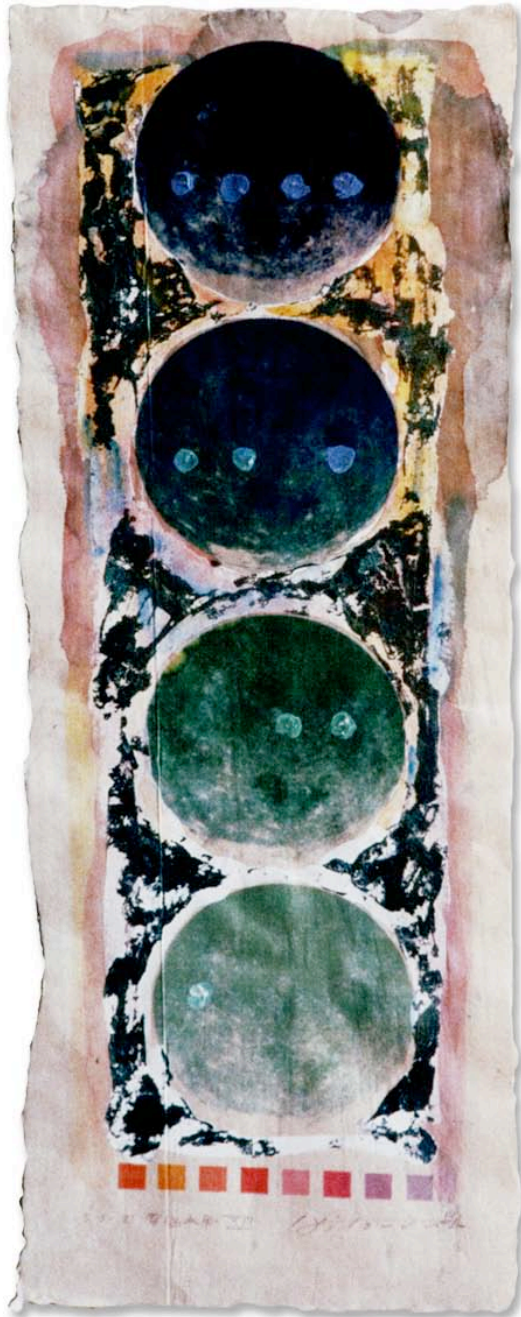
電腦水脈18
30.0 x40.0 cm 1995年
和紙、インク、ジェッツ、水彩、箔



電腦水脈10
60.0 x 20.0cm 1995年
和紙、インク、ジェッツ、水彩



電腦水脈16
60.0 x 20.0cm 1995年
和紙、インク、ジェッツ、水彩



電腦水脈15
60.0 x 20.0cm 1995年
和紙、インク、ジェッツ、水彩



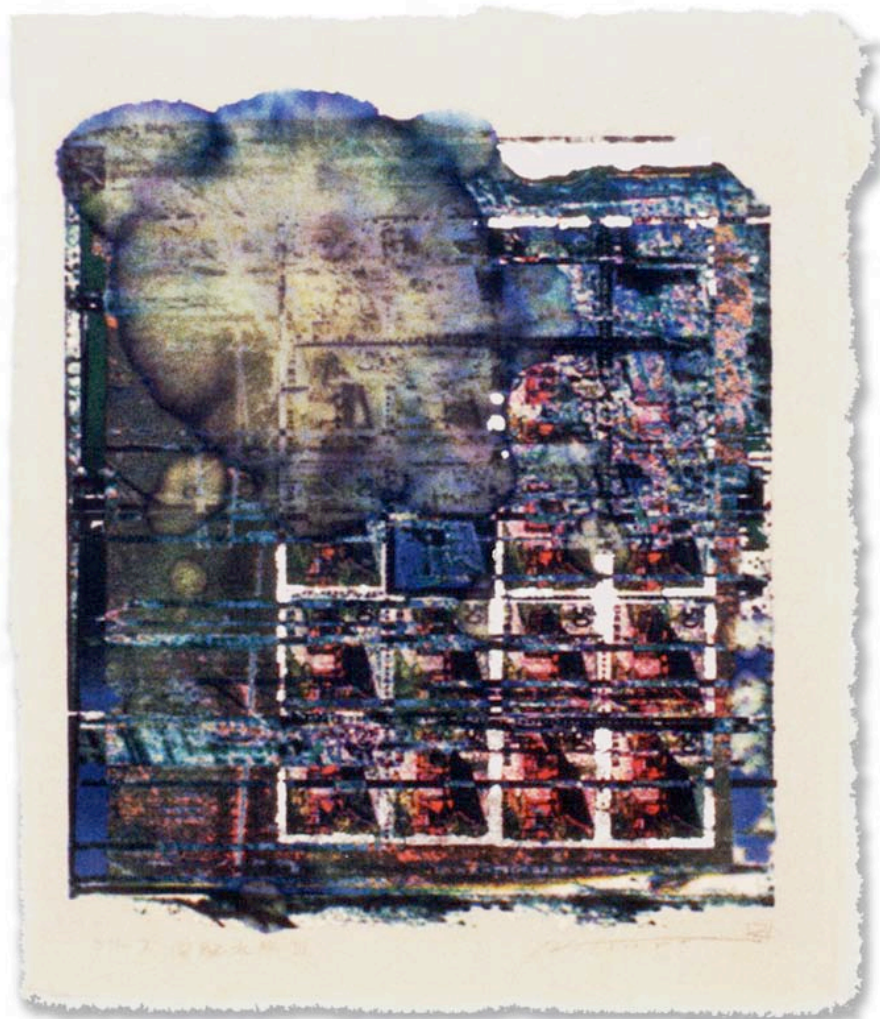
電腦水脈14
60.0 x 20.0cm 1995年
和紙、インク、ジェッツ、水彩



電腦水脈21
60.0 x 20.0cm 1995年
和紙、インク、ジェッツ、水彩



電腦水脈20
40.0 x30.0 cm 1995年
和紙、インク、水彩、箔



電腦水脈03
25.0 x20.0cm 1995年
和紙、インク、水彩

沖縄タイムス

平成7年(1995)年10月06日

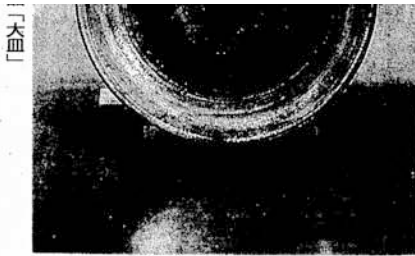
展覧会から

95.10.6

陶芸家・大嶺信孝の作品展が、那覇市の沖縄三越ギャラリーで開催されている。南蛮焼には難しい大作を多く紹介した作陶展。九日まで。

今月、ちょうど五十歳の誕生日を迎えるという大嶺さん。これを機会に、これまでの南蛮一辺倒のイメージだけではない「大嶺陶器」の多彩さを見せた展覧会となった。

直径約七十センチの大皿は、中央の黒に向かってブルー、オレンジ、緑、グレー、ベージュ色の釉薬が円形状に層をなしている。「サンゴ礁の海を連想した」というこの



「大皿」

作品は、大嶺さんの宇宙観を表現しているようでもあり、印象的だ。

壺作品は、ロクロを使っているにもかかわらずことなくゆがんだ形が特徴。これは大作の壺を三四日かけて制作する際の継ぎ目。それをあえて残すことでできたゆがみ。「壺の年輪」は、大きな作品独特の威圧感を払しょくし、陶器をより親しみやすくしている。

この壺のキャンバスに、窓の中の炎で絵を描く。炎の動きをそのまま壺に写し取った躍動感あふれる陶器の色が、陶器自体のゆがんだ造形とマッチしてあらゆる角度から別の表情を引き出した。

そのほか、二十年前に発表してのほど復活させたという、土に木の葉を練り込んで焼いた「天目茶碗」も展示。茶碗の底に刻印のように木の葉の葉脈が焼きつく同作品が、多彩な作品を出品する同展のスパイス的役割を担って作品の一つひとつを二層印象つけている。

◆金城満展(アートギャラリー サエラ、5/14日)

昨年、ギャラリーワークIIで開催した「電脳版画展」に続く電脳シリーズ。今回は、出品された二十点の作品すべてに「電脳水脈」

という題が付けられている。

電脳は、人間の脳(有機体)に例えられたコンピュータ。金城満さんは「その脳の表面からわき出してくる思考を、水に置き換え、自分の中の水脈を確認する作業」という言葉が、同作品群の表現に一番近いかもしれない」と説明する。

「水は制御できない、どこにどう動くか分からない一方で、しかしその源となる水脈は必ず存在し、それによってコントロールされている」。

人体、漢字、円などをモチーフにしたコンピュータの印刷に、水彩絵の具をにじませて「電脳」と融合する「水脈」を表現した。

◆ギャルリーパレ展(ギャルフェ ギャルリーパレ、5/30日)

浦添市安波茶のギャルフェギャルリーパレ一年に一度の公募展を開

催している。

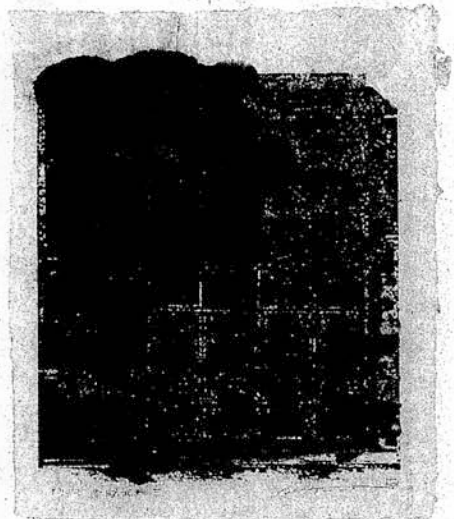
プロアマ問わず美術作品を持ち寄り、参観者の投票で受賞作品を決める。

大公募展の審査員たちとは違い、一般の参観者と作品の触れ合いを目的にした同展には、りゅうせき、沖展などの入賞者たちも新しい創作の実験の場として出品している。

今年は二十二点が参加。投票は三十日まで。翌三十一日は、受賞パーティーが開かれる。



ギャルリーパレ展から
当眞政次郎作品「2人」



金城満作品「電脳水脈」

美術月評

10月



浅野 春男

穏やかな風景画がたいへん好ましく感じられた。ルノワールの「横たわる裸婦」も色彩の眩目へとびざなる美酒のごとき油彩画であった。

さて、沖縄の十月もある意味では大変実した二カ月であった。

とりわけ那覇市は、

のまな意識が立つてはじめて、

「深まりゆく秋には、どんな芸術が似合えぬか。パリのグランパレでは規模なセザンヌ展が開演した。来年一月七日まで。油彩・水彩・デッサン合わせて約三百十点が展示されるが、午前中は予約が必須となり、午前は予約のキャンセルがないと入れない。パリもまた、展覧会を鑑賞するの

捉えどころのない時代感覚

青野

後美術の流れと並んで、この地域における美術活動の歴史として把握しようと試みた展覧会である。その

氏 村
渡名 喜
金城



力強く陽気で健康的 コンセプトを持った作家 情報過多時代を形象化

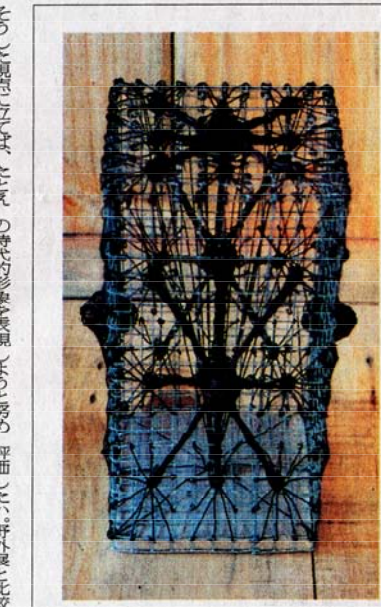


金城満 電脳水脈No16

「一画」の彫刻展は、第四回目を迎えた。村が中心となる。村が中心となる。村が中心となる。村が中心となる。



青野正 風壊



渡名喜元俊 FLORANo 6

